

電気災害

我々が思いつく作業の多くでは「電気」は必要不可欠なものです。故に感電事故を防ぐ方法を理解する事は大変重要です。

我々の職場には様々なその作業の種類により異なる様々な電氣的な危険が存在しています。ある職場では高電圧設備を使うこともあれば、小さな電気設備を使う職場もあります。高架送電線ないしは、接地が正しく行われていない電気工具などからの感電事故、どちらにしても人体に致命傷を負わせることがあります。

一方で、電気ショックや電気は我々に様々な危険をもたらします。感電による衝撃で作業員がはしごから落下、深層部へ重度の損傷を含む火傷、過電流等により過熱した配線からの発火、可燃性蒸気、ガス、ほこりが充満した状態に於いて火花により爆発する事もあります。

電気が人間の体を通ると心拍、脳機能や呼吸に悪影響を及ぼし、即死や重大な障害の原因となります。

感電事故防止のため以下の点に注意しましょう。

- 電気機器や配線の日常点検や保守管理の励行。少しでも異常が認めたら速やかに報告し、必要に応じ機器の修理依頼や取替えを行う。
- 電気機器の修理は必ず有資格者が許可を以って行う。事故のほとんどは不適切に修理された機器を使用していたことが原因です。
- 正しく接地され、3端子電源プラグコードのある機器を使用する。
- 電源コードや接続部分が損傷、擦り切れ、破損していないか確認する。
- 漏電遮断器(GFCI)等安全装置の付いた電気機器を使用する。コードやプラグを濡れた手で扱ったり、電気機器を湿っている所や水中に浸した状態では使用しない。
- コードをコンセントから外す場合は、コードを引張らずにプラグ部分を持って引き抜く。
- 電気関連の作業をする場合、アルミニウム製や金属補強した梯子は使用しない。蛍光灯を替える際も注意。
- 送電線や電気設備が梯子、ポールまたは配管を使用する際は頭上に送電線や電気器具が無いか確認し接触感電事故を予防する。
- 電気火災の消火のため水を使用してはいけません。必ず電気火災に対応した消火器を使用する事。また、消火器の位置、使用方法を日頃から確認する事。

*作業の種類に係わらず、常に感電危険に注意を払うこと。
家庭での活動でも同様です。*